

# TOY BOX

Hello!Project Fan Magazine

2004.12  
Vol.5

読者投稿“亀井絵里さんについて”

『彼女がくれるもの』

『希望の光』

おすすめサイト紹介

『everything』

ハロプロ研究

『リーダー論～後編～』

連載マンガ vol.5

『コミックハロプロ』



2005年もよろ～



# 彼女がくれるもの

text by レガス

はじめまして。一般投稿させていただきましたレガスと申します。  
いざ亀井絵里さんについて何か書こうとしても、どこに焦点をあてるべきか。一点に絞つてもよいが、今回は多角的に、なるべく主観を排除して「一般向け」に語りたいと思う。恐らく他の方が具体的に彼女の魅力を語られていると思うので、かなり一般的な展開にしようと思う。その点はご了承されたし。

まずは容姿や性格について。一般的に彼女は美少女と形容されており、長くて黒い髪（注）が印象的で、はつきりとした瞳もまた魅力的である。娘。加入時に比べるとより美しさに磨きがかかってきたと思われる。そのキャラクターは良い意味で独特で、時折見せる不思議な、あるいは滑稽な言動は周囲の人間を驚かせることもある。しかしそれが彼女の魅力でもあり、周りを楽しませてくれる。「内気な性格をどうにかしたい」というのが娘。のオーディションを受けた理由の一つであり、見事に合格することができた彼女。加入当初こそ不安や緊張で自分をまだ出しきれてはいなかつたが、経験をかさねる毎により自分らしさを前面に出せるようになり、今や内気な彼女はどこにもいない。かなりの頑張りやさんで、意匠惨憺な様子が窺いとれる。

続いては彼女の位置付けについて。ここでいう位置付けとは、娘。やハロプロ内

での彼女のポジションといったものではなく、我々ファンにとっての彼女の存在対象についてあることを注意してもらいたい。さて、彼女をいわゆるアイドルの一人として捉えるか、亀井絵里という一人の人間として捉えるか（あるいはもつと別の捉えかたもあるだろうが）によって彼女に対する思いなども変化すると思う。結論から言えば、後者の方が彼女の魅力が存分に伝わってくると考えている。何故ならば、少しきつい言い方になるが（一般的な）アイドルとしてはまだ発展途上な面も多々あります、どちらかといえば普通の女の子に近いからだ（それが娘。のコンセプトでもあるが）。アイドルというレッテルが彼女に蓋をしているのだ。アイドル云々というのを排除して「そこ（TVやコンサートなど）で亀井絵里という一人の人間が笑顔で歌つて踊っている」ことなどから彼女の魅力は我々に直に伝わってきて、我々個々のアイドルとなるのである。未だに良い意味で垢抜けない彼女だからこそのことである。

さて、話を少し変えて、この度発売された写真集「亀井絵里」について述べてみたいたいと思う。つい先日、写真集の表紙が公表された。まるで何かを切实に訴えているかのようで、それでいて何か不安な要素も持ち合わせているかのように私は感じたが、皆さんはどう思つただろうか。

人間が対象となる写真集を我々がみる上で、その対象への見方は大きく分けると二

つに分類できる。一つは「偶像的対象」、もう一つは「芸術的対象」である。前者はどうしても単なるアイドルとしてだけの対象となってしまい、対して後者においては対象の本質を探るという深遠たる思考が形成される過程を実感しつつ、その対象の何たるかを見つめることとなる。今までその対象を深く見てきたつもりでも、対象の気付かなかつた一面を感じこともあるだろう。先に述べたことを踏まえれば、写真集「亀井絵里」を前者でみた場合そこまでの対象とは完全にはなり得ない。逆にいえば、対象が「亀井絵里」だからこそ彼女の独特な世界観を単なるアイドルの枠組でくくることなどできない、それゆえに彼女の本質を入り口から深淵までじっくりと感じ取る必要がある、といつても良いかも知れない。この点で写真集を見る際は注意しなければならないだろう。

補足：彼女は写真写りが悪い、などと言われているようだが、捉え方によつては写真といったものは上に述べたことに対する出発点にすぎない、従つて写真写り云々といつた議論は無意味だ、とポジティブに考えることもできる。勿論その魅力が溢れんばかりの写真も多くあることだろうと期待している。

最後に、彼女が我々に与えてくれるモノについて。ここでは歌や踊りなどを除いた五感で感じ取れない抽象的なことを取り上

げようと思う。例をあげると、私は彼女という存在に出会つて価値観が変わった。実際に自分もかなり内気な性格で、別段特に気にはしていなかつたがどこかでコンプレックスみたいなものはあつた。だが性格を変えようとは思わなかつた。ところが、彼女も同じ境遇にあつて、前述のように彼女は変わつていつた。—そういういつた意味では彼女は自分に「契機」を与えてくれた。彼女の魅力に少しでも惹かれた方なら彼女から何らかしらのモノをもらつていいはずである。彼女は我々と同じこの空間にいると同時に、個々の固有の空間にも存在する。ただそこにいる「亀井絵里」はいつも輝いている彼女であることになんら変わりはない。こんなにも多くのことを享受しているのだから、その分精一杯の応援で返していく。くどいうのが我々の務めであることは言うまでもない、ということで結びといたします。最後まで読んでいただきありがとうございました。

注) 最近茶色く染めた模様 まあそれが何だつて話ですが

亀井絵里さん、この子の最大の武器であり魅力であるのは「笑顔」だと思います。笑顔と一言で言つても何種類も存在します。“楽しい笑顔”、“うれしい笑顔”、“悲しい笑顔”、“不愉快になる笑顔”その他にもいろんな笑顔があると思います。僕が亀井さんに感じる笑顔とは「見てる人まで全員楽しくて幸せな気持ちにできる笑顔」だと思っています。

言い方が悪いかもしませんが“子供の無邪気な笑顔”だつたり“飼い犬などの純粹無垢な顔”に近い気がします。そこには何も邪念がなく心から純粹に楽しんで、それを100%表情に出せて人に伝えられるのは立派な才能です。

実際に亀井さんの笑顔に元気をもらつて、楽しい気持ちにさせられた方は多いと思います。そんな事言つたら俺の推しの○○ちゃん



## 特集 亀井絵里さんについて②

# 希望の光

文／かもきよん

でこの子の笑顔にはこんなにも力があるんだろう?なんでこの子の笑顔はこんなに純粹で透き通ってるんだろう?これって僕が亀井さんが大好きで盲目になっているだけなんでしょうか?でもこれだけは自信を持つて言えます。亀井さんにとつてモーニング娘。は自分の魅力を最大限にさせて輝ける場所であり、メンバーは1番の宝物なんだと思いません。僕は亀井さんがハロモニやゴロッキーズなど他のメンバーとふげけあつたり、ハロモニアワード中澤さんやゲストに対し挑発的な事をする時の笑顔が大好きです。なんて言うんでしょうね?亀井さんのすばらしい笑顔には言葉はいらない気がします。ただ純粹にそこには「楽しい」って気持ちしか存在しない様に僕には感じます。女の子は恋人の前では1番いい笑顔をします、モーニング娘。のメンバーに見せる笑顔ってそれに近いんじやないですかね?

次に前号にもちよつと触れられた「カツプリング」ですが、やつぱり亀井さんと言えば「さゆえり」だと思います。この2人の絡みも大変魅力的なのですが、僕的にめちゃめちゃ大好きで見てて微笑ましいのは安倍さんとの絡みです。もう同じモーニング娘。のメンバーではないからあまり絡みを見れる機会は少ないけど安倍さんが「ハロモニ」の司会で時々2人でじやれあうシーンに遭遇しますよね?僕は安倍さんの亀井さんを見る目が他のメンバーに比べて1番優しい目になる気がするんですよね。安倍さんの卒業式での亀井さんの言葉は本当にお世話になつて、いろいろ教えてもらつたんだろうなつて伝わってきた訳ですが、たぶん僕らファンが思つてる以上たくさんたくさんかわいがつてもらつたんだろうなつて伝わってきた訳ですにあの2人の関係は深い気がします。たんだろうなつて伝わってきた訳ですが、たぶん僕らファンが思つてる以上にあの2人の関係は深い気がします。5期6期から見てオリジナルメンバーでモーニング娘。結成から最前线でがんばつての安倍さんは神にも近い存在だと思います。歳も離れてるし大先輩だから5期6期、それ以降に追加されても多分ある程度距離をおいて上司

身につくものでもないので立派な才能だと思います。

と部下みたいな関係でいくんだろうな  
うつて思つていました・・・たぶん安倍さん本人もそう思つてたんじゃない  
でしようか?そんな矢先に、亀井さん  
と安倍さんはめっちゃ仲良くなりまし  
た。いい意味で怖いもの知らずなので  
すが安倍さんのモノマネをしてバカに  
してみたり、安倍さんも亀井さんのお  
バカな回答に茶々を入れてみたりして  
います。もちろん大先輩としての尊敬  
の念を忘れずに、余計な壁だけを取り  
除いていつてる気がしました。現在放  
送されている「ハロプロアワー」での  
中澤さんとのやり取りを見ててもそれ  
は感じます。中澤さんの場合はモーニ  
ング娘。として一緒に活動していくなく  
あの10分足らずのコーナーのみの付き  
合いなのに今は“お前”って呼ばれた  
り、“きやめい”って呼び捨てにされ  
たりしています。

安倍さん、中澤さんにとって亀井さんは久しぶりに入つた問題児であり、元気のある子と感じてるのではないかと感じます。まあ賛否両論分かれる話なので深くは書かないですが、話を戻してハロプロアワーですが亀井さんは「エリザベスきやめい」と言う名前でレポーターをしています。毎回ゲストを迎えてコーナーを楽しませてくれてるのですが、あきらかにゲストより目立とうとして時にはゲストに被つてカメラを独り占めしようともしてますよね（笑）あれって台本での程度指示されてるんだろうって？時々疑問に思います。もしも台本には「ここで邪魔をする」みたいな事だけであとは亀井さん任せだとしたら大したものだと思います。たぶん当初プロデューサーもそこまでは期待してなかつたんじゃないですかね？前にも書きましたがない意味で怖いもの知らずなんでしょう、でも昔のメンバーハート争いの中で生活をしてきましたとあります。愛の種手売りで5日間と言う期限との争い、デビュー曲のパート割争奪戦、2期3人のタンポポ加入争い、うたばんでの座席争奪戦、あとは当然今とは違つてモーニング娘。は発展途上だつたので他のアーティストとの戦いなど

あげればキリがないぐらいの争いの中で生きてきました。エリザベスキやめいはどこまでが台本で、どこまでがアドリブかわかりませんが間違いなく亀井さんの中にはうたばんの圭ちゃんの精神を感じます（笑）前へ前へ出る姿勢が愛の種手売り時代から、見てきた僕には昔のメンバーと被ります。加入了時にはすでに国民的アイドルで、昔みたくパート争奪戦も座席争奪戦もなく争う場を与えてない中で何が亀井さんをここまで強くさせているんでしょう？ハロプロ全体で考えても2001年以降加入のメンバーであそこで先輩との壁をむりやりよじ登ろうとしたメンバーがいたでしょうか？

か悪い変化かはわかりません、先輩として真面目になつて小さくまともな部分だけ残す感じですね。まあ僕の勝手な理想ですが・・・2005年はモーニング娘。にとつても亀井さんにとって何かある年の様な気がします。

# おすすめサイト

今回紹介させていただくのは、新垣里沙ファンサイト「everything」さんです。

公開されてまだ間もないサイトさんなので一部準備中のコンテンツがありますが、現在公開されている「壁紙」は必見！グレー中心のサイトなので壁紙もグレースケールかと思いまして、元気いっぱいのガキさんがフルカラーラーで皆さんの訪問を待っています。

管理人は noralion (野良ライオン) さん。最近ガキさんにハマった方のようですが、サイトを見れば本気度がわかりますね(笑)。過去のガキさん映像をキャプチャしている中最中とのことなので、近いうちに多数のムービーがアップされることでしょう。



【サイト名】 everything

【カテゴリー】 新垣里沙

【管理人】 noralion

【URL】 <http://everything.noralion.com/>

モーニング娘。は今、変わろうとしています。そのきっかけの一つが今回の7期オーディション。またなく、モーニング娘。第7期メンバー オーディションが大詰めを迎えます。常に変化と共に歴史を築き上げてきたモーニング娘。がまた新たな変化を起こそうとしています。そもそも、モーニング娘。が社会的な集団へと進化する発端となつたのが2期オーディション。それから変化という武器を内包するようになつたモーニング娘。は「国民的アイドル」として確固たる地位を築いています。その変化の発端を築き今なお、モーニング娘。においてその存在の重要性の高さが語り継がれるのが矢口真里。そんな中で、果たして彼女はこのオーディションをどう見ているのでしょうか？既に彼女の頭の中にはモーニング娘。の未来像が描かれているのでしょうか？



# リード／三論 （後編）

文／フェリエ

ただ、その7期という付加価値を有効利用できるかは、モーニング娘。自体の体制にかかりっています。7期が入りにくく雰囲気を作り出しまっていっては、昔のモーニング娘。のような壁が出来てしまい、グループとしての協調性が生まれない危険があります。絶え間ない努力の結果、ようやくレベルの高い参入障壁を越えてモーニング娘。の一員となつた新メンバーに、内部障壁という見えない壁に直面させることは避けなければなりません。そういった障壁を生じさせない為にも、コミュニケーション力というのも大きく影響できます。そこで特に力を発揮しなければならないのがリーダー。7期という新興勢力を上手くグループに順応させなければなりません。その他にも課題は山積み。不思議とこういった課題多き時期に、彼女がリーダーになるのですね。まさにこれは運命のいたずら、運命の巡り合わせなのでしょうか・・・?リーダーになるべくしてなつた彼女に訪れるべくして訪れた課題なのでしようか・・・?



長く娘。を愛し、リーダーとしても素晴らしい役割を果たしてくれた飯田さんには代わり、満を持す形でリーダーとなるのが2期メンバー矢口真里。彼女はオリジナルメンバーでなくして、初めてモーニング娘。のリーダーとなります。それはオリメンがいなくなる為、当然の反射的な現象ではあります、彼女は客観的に立証された優れた統率力が評価され、早くから次期リーダー候補として名前が挙がっていました。しかし、中澤さんから飯田さんに変わるときとは環境が全く違います。矢口さんにはモーニング娘。の復活という全く対照的な要求が突きつけられるでしょう。劇的な環境の変化に対応するには新たな資質が求められることは言うまでもありません。常に旧世代と新世代の架け橋となつていた彼女が、今度はモーニング娘。というシステムに対しはしごをかけ直す必要があります。

過去の信頼性を考えればよりハードルの高い結果を求められることになるのは間違いない結果を認められることになるのは間違いません。その為、大きなプレッシャーが彼女の肩に重荷として、のし掛かることがあります。そのため、大きなプレッシャーになるかもしれません。ただ、そのプレッシャーは感じる必要など全くないです。ファンの期待度が高ければ高いほど、プレッシャーが大きくなるのは、ごく自然な事ですが、そうなる前にファンの期待をリーダーという役割を全うする上でのエネルギーに変えて欲しいのです。事務所側としてもどれほどのパフォーマンスを繰り広げてくれるかという期待と共に、彼女には全幅の信頼をおいているでしょう。ファンの期待を活性剤として前向きな要素に出来たなら、よりモーニング娘。も活性化するに違ひありません。

ファンのみならず、過去に卒業していったモーニング娘。のメンバーも彼女には絶大なる信頼を置いているでしょう。そして彼女の心には、その過去に卒業していくメンバーの心が生きています。それはリーダー業をするに当たっての力強い後押しになると思います。しかし、今、過去を追憶する必要はないし、過去のある一時点に浸っている余裕もない。過去は過去。それは取り戻すことの出来ない歴史の一つ。彼女は「今のモーニング娘。」「未来のモーニング娘。」を見据えた構図を作らなければならぬのです。いつまでも旧態依然たる価値観を持つていては、激流と化す時代の流れに呑み込まれてしまうだけで、前に進むことは出来ません。モーニング娘。の価値は日々刻々と変化し、その中で価値連鎖という効果的なツールを生み出しているところに、モーニング娘。が存続出来る源泉があるのです。更に言えば、環境適応的な行動をするのではなく、主体的かつ意識的の行動を取らなければならぬのです。モーニング娘。はメンバーという資源の合計よりも大きい存在であり、投入されたメンバーより、大きな効果を放つことの出来る有機的存在です。今後のモーニング娘。を担うのは5期6期であり、そして7期であることは間違いないわけで、リーダーはそのメンバーの潜在能力を最大限引き出さなければならぬのです。大きな効果を生み出すことが出来るかどうか、ここにかかるべきです。モーニング娘。というのはメンバー一人一人が稀に見る特異な才能を持つた集団です。しかし、現状に目を向ければ、その言葉を言える状況ではありません。潜在能力は伏在したまま。5期6期のメンバーが豊かな才能を發揮出来る為に

女はモーニング娘。が大好き、みんなが大好き。モーニング娘。であることに誇りを持ち、自分を信じることを覚えた彼女は夢を自分のものとしました。モーニング娘。を愛する気持ちは誰にも負けないという程、強いのです。自分のこと以上に、常にメンバーのことを見てています。

しかし、彼女には一つ、大きな不安があります。彼女がリーダーになるに当たつて大方が抱く不安がこれではないでしょか。結論から言えば、「長所が返つて反発を招く」何もかも一人で抱え込んでしまい、自己管理、自己制御が出来なくなり、本来持つ自分の長けた能力が違った方向へと働いてしまう危険があるということが懸念されます。これまでの軌跡を見れば分かるよう、彼女は自分を見失つてもモーニング娘。を支え続ける存在。たとえ自分が倒れても彼女の肩にのしかかる責任感、重圧感は変わらない。しかし、ここで一つ疑問に思うのですが、そこまで限度を超えた自己犠牲的な献身さは、いくらリーダーと雖も必要なのでしょうか？彼女の対モーニング娘。への献身さは想像を絶する程です。頑張りすぎず、自らの考えをマイペースに実行して欲しいのです。逆にそれは裏を返せば、彼女の行動一つでモーニング娘。は、右にも左にも大きく旋回しうるということです。彼女の頑張る量とモーニング娘。の質が比例しているのと同時に、危険度も比例してしまうことになるのです。つまり、例してしまうことになるのです。

時には緩急をつけることが、自分の為にもモーニング娘。の為にも必要なのです。

そんなリーダー志向の強い矢口さんにも、当然のごとくアイドル的要素はあるわけです。楽曲的な面に限れば、矢口さんはあまり前には出てきませんが、テレビやラジオといったメディア面を考慮に入れると、やはり一番に名前が挙がるのが彼女ではないでしょうか？モーニング娘。を左右に動かす実権を握っています。モーニング娘。のみならず、ハロプロの流動化を象徴するかのごとく、多数のユニットに属してオールラウンド的な存在感を常に発信していました。

ようとしている時は、その兆候が見えるか見えないかの内に、リーダーが警鐘を鳴らさなければグループとして動かなくなる危険性があります。しかし、彼女は自分の役割をしっかりと理解している。「自分はセンター向きではなく、後ろから支えていたい」という考えを全面に主張しています。

小さな体が支える大きなモーニング娘。誰もが認めるそのリーダー性。モーニング娘。と一心同体と為す彼女。彼女には彼女にしか分からぬモーニング娘。の成立条件があります。先見性と説得力を有する彼女の発想と手腕に期待。失った大衆性を取り戻すべく、矢口真里率いるモーニング娘。が始

このように、彼女には様々な魅力がありますが、その魅力も中澤さん、飯田さんとの時と同じく、リーダーという役職に就くと同時に、封印しなければならない状況になるでしょう。しかし、彼女の場合そこに抵抗はないはずです。そこに抵抗があるのなら今、彼女はないでしょう。自分自身の目標、目的がモーニング娘。自体のそれとなるほど彼女の意志は強いはずです。彼女のキャラクター性そのものが、モーニング娘。の方向性であると言つても過言ではあります。そのグループの目的がドラマティックに変化することは稀であり、むしろ徐々に変化していくものです。しかしながら、5年も10年も経つと大きな曲線を描いています。実際、5年前のモーニング娘。と比較すれば、目的は大きく変化しているでしょう。そうしたグループの転機が訪れ



## ☆記事募集のご案内☆

現在、「TOYBOX」では記事を書いてくれる方を募集しています。参加条件は無し、どなたでも歓迎いたします。

前回、記事のテーマを設定して募集いたしましたが、今回も引き続き編集部でテーマを設定いたしました。

次号分のテーマは

### ・飯田圭織さん卒業について

です。もちろん従来どおりご自分でテーマを設定して下さっても結構です。文字数は1ページあたり約1000文字で、何ページでもOKです。画像の数・サイズによって変動しますのであくまでも目安としてお考え下さい。

文章は「TOYBOX」サイト内 "mai" ページのフォームから投稿してください。また、縦書き・横書きの希望がございましたら併せてフォームへ記入して下さい。編集の都合上やむを得ない場合を除き、出来る限りの対応をいたします。

それでは読者の皆様からの投稿をお待ちしています。

2004年最後の『TOYBOX』いかがでしたでしょうか？発行時期が本当の年末になってしまって、これでは新年号と何ら変わりないですね（笑）さて、2005年度より『TOYBOX』は月に一度発行する月刊誌となります。読み応えのある記事をより一層拡充させていきますので、来年もうどうかよろしくお願ひ致します。

## 執筆者紹介

レガス	亀井絵里推しの大学生。♂
かもきょん	亀井絵里ファンサイト『亀色片思い』の管理人補佐。亀井絵里推し
フェリエ	矢口真里推し。『Again...C』を運営中
カゴカゴ	加護亜依推し。『comicKAGO』を運営中。マンガ担当
ハイマン・ロス	辻希美推し。『ののすいーと』を運営中。デザイン担当